



令和7年度

運営に関する計画

自己評価
(最終反省)

大阪市立デザイン教育研究所

令和8年1月

大阪市立デザイン教育研究所 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

組織目標

学生自らが工業製品やそれに類する“モノ”や“コト”をつくりだし、未来を切り拓く力を育成する。

現状と課題

大阪市立デザイン教育研究所は、今年で創設38年を迎える。38年前といえば、日本全体がバブル景気に沸き、市民生活の質的向上を背景に、個人消費や設備投資を中心とする内需拡大によって産業が大きく飛躍した時代である。その中で、あらゆる産業分野で「デザイン」の重要性が高まり、美術や工芸を専門的に学んだ高校生が、デザイン・造形教育をより深化・充実させるための専門教育機関として、本研究所が大阪に創設された。以来、創設時の理念を継承しながら、高度なデザイン教育を提供し、国際文化都市・大阪の発展に寄与しうる優れた人材を育成してきた。

本研究所は、2年制の工業専門課程を有する専修学校であり、各学年の定員は45名、総定員数は90名の小規模校である。産業デザイン分野における全国唯一の公立専修学校として、デザインに関する知識・技術の向上を目指している。

志願状況については、毎年、他府県からの志願者があり、本研究所の教育活動に対して全国的に一定の評価を得ている。一方で、最も近い大阪府立工芸高等学校からの志願者は伸び悩んでおり、継続教育機関としての役割が低下していることも事実である。

本研究所は工芸高校に隣接し、校舎の1～3階部分を使用している。4階部分は工芸高校の格技室となっており、出入口などの動線は分かれているものの、施設自体は工芸高校と併用する形となっている。そのため、工芸高校の府への移管に伴い、さまざまな課題が生じており、今後も相互の密接な連携が重要となる。

以上のような施設面や志願状況を踏まえ、本研究所のシステムや特徴を最大限に活用し、これまで以上に学生一人ひとりの個性に応じた、きめ細やかな指導を実現できる学校を目指していきたい。

中間目標

【安全・安心な教育の推進】

- 勤労観・職業観を育てるとともに、自己の使命感の確立を目指す。
- 社会で自立できる人材を育成する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行う。
- 「共に学び、共に育ち、共に生きる教育」を推進する。

【学びを支える教育環境の充実】

- 積極的な情報発信を行い、開かれた学校づくりを進める。
- 学生が集中しやすい空間を作り、持続可能な学校運営の実現を目指す。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

○ 修業年限2年という短期間でのキャリア教育の充実を図るため、入学当初から就職活動を見据え、採用や進学に向けたポートフォリオ作成を支援する。学生一人ひとりの強みが伝わる内容となるよう指導を行うとともに、企業との連携を強化し、インターンシップの機会を増やす。また、履歴書作成や面接対策を徹底し、実践的な就職支援を行う。

○ 今年度は阿倍野税務署と連携し、納税促進に関するデジタルサイネージを制作するプロジェクトを企画している。デザインを通じて、国民の三大義務の一つである納税について学ぶ貴重な機会となるため、積極的な指導を行い、学生の納税意識を高めることを目指す。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

○ グラフィック、プロダクト、UI/UX、空間デザインなど、さまざまな分野に触れることで学生の適性や興味を広げることを目指す。また、メタバースの知識を高校時代に学んだ学生が入学することに合わせ、これまで2年次の夏季授業で行っていたArchiCAD実習を1年次の前期授業として開講することで、学生の関心に対応する。

○ 実践的な授業としてクレイモデルの授業を提供しているが、社会のニーズに応えるため、デジタルモデルの授業を新たに開講し、Adobeソフトや3Dモデリング、AIデザインツールなど、業界で求められる最新技術を学ぶ機会を提供する。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

○ HPを活用した情報発信をはじめ、オープンキャンパスや入試説明会、学校訪問などを通じて広報活動を強化し、デ研の取り組みを広く周知する。大阪市内だけでなく、大阪府や他府県のデザインに興味のある高校生にも認知されるよう、積極的に広報活動を進め、進学先としての魅力を伝え志願者を増やす。

○ 学校での学生生活を快適に過ごせるよう、不具合の早期発見と迅速な修繕に努める。また、環境にも配慮し、校内のLED化を進め、エネルギー効率を向上させるとともに、明るく快適な学習環境を提供する。これにより、学生が集中しやすい空間を作り、無駄な電力消費を削減して持続可能な学校運営の実現を目指す。

3 本年度の自己評価結果の総括

○ 阿倍野税務署と連携して実施した「租税PR映像制作プロジェクト」では、学生が租税制度や納税者意識について理解を深めながら、納税に関する不安を軽減する表現方法についてチームで検討し、作品制作に取り組むことができた。なお、採用作品については、1月15日に本校において阿倍野税務署長より感謝状が授与された。

○ 今年度より、1年次前期に「ArchiCAD実習」、1年次後期に「デジタルモデル制作」を新規開講し、社会の動向に対応したカリキュラムの整備を進めることができた。いずれの授業も内容が高度であり、学生にとって一定の難易度があったものの、授業後アンケート「この授業は、あなたの学習や将来の目標に役立ちましたか？」において、「ArchiCAD実習」では64.2%、「デジタルモデル制作」では91.7%が肯定的回答となり、一定の教育的効果が確認された。

○ 本年度は4月から9月にかけて、大阪府下を中心に、兵庫県・和歌山県・奈良県の公立・私立高等学校および美塾、計75校を訪問し、積極的な広報活動を実施した。これに加え、出前授業を4校で実施し、合同進路説明会にも3校参加するなど、例年以上に多角的な広報展開に取り組んだ。その結果、志願者数は着実に増加し、3年ぶりに入学定員を充足することができた。

大阪市立デザイン教育研究所 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準

A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○修業年限2年という短期間でのキャリア教育の充実を図るため、入学当初から就職活動を見据え、採用や進学に向けたポートフォリオ作成を支援する。学生一人ひとりの強みが伝わる内容となるよう指導を行うとともに、企業との連携を強化し、インターンシップの機会を増やす。また、履歴書作成や面接対策を徹底し、実践的な就職支援を行う。</p> <p>○今年度は阿倍野税務署と連携し、納税促進に関するデジタルサイネージを制作するプロジェクトを企画している。デザインを通じて、国民の三大義務の一つである納税について学ぶ貴重な機会となるため、積極的な指導を行い、学生の納税意識を高めることを目指す。</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	達成状況
<p>取組内容①</p> <p>学生が学ぶことと自己の将来とのつながりを見据えながら、自らの力で生き方を選択できるよう、必要な能力や態度を身につけることを通じて、社会的・職業的自立を促進する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>年度末での学生の就職先におけるクリエイティブ関連企業への就職率の割合を80%以上とする。</p>	B
<p>取組内容②</p> <p>キャリアデザインの授業を通じて、将来の人生設計について入学当初から継続的に考えさせるよう取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学校評価アンケート「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率を70%以上とする。</p>	B

<p>取組内容③</p> <p>「キャリアデザイン」の授業を計画的に進めるとともに、「特別講義」や「プロジェクト」などの授業との横断的な取り組みを通じて、デザイン分野への職業観を育む。</p>	B
<p>指標</p> <p>学校評価アンケート「学生一人一人の能力・適性を生かし、主体的に進路選択ができるように、きめ細かい進路指導が行われている。」の肯定率を70%以上とする。</p>	
<p>取組内容④</p> <p>阿倍野税務署からの依頼による納税に関するデジタルサイン等制作プロジェクトにおいて、学生がクライアントの意向を理解し、効果的なデザイン制作を行えるよう指導することで、学生の納税に対する意識を育む。</p>	A
<p>指標</p> <p>プロジェクト前後に行うアンケートにおいて、納税に関する知識や意識の向上を図る。</p>	
<p>取組内容⑤</p> <p>集団生活における規範意識を高め、ルールやマナーを守って学校生活を送れるよう、統一した指導を継続的に行う。また、人権教育に関する活動を通じて、他者や障がいを持つ人への配慮の気持ちを養い、人権意識の向上に努める。</p>	C
<p>指標</p> <p>学校評価アンケート「教職員間で連携した指導が行われている」の肯定率を70%以上とする。</p>	
<p>取組内容⑥</p> <p>情報社会の進展に応じた情報モラルを身につけさせ、自分だけでなく他人の個人情報や法律上の権利を尊重できる態度を養い、適切な情報発信の手段と方法について指導する。</p>	A
<p>指標</p> <p>成人年齢の引き下げに伴い自分の責任の大切さを理解していると答える学生の割合を80%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑦</p> <p>自他の権利を尊重し、情報社会での行動に責任を持つとともに、犯罪被害を含む危機を回避するなど、情報を正しく安全に利用できるよう、情報モラルの育成を図る。</p>	B
<p>指標</p> <p>「コンピュータリテラシー」や「特別講義」において、情報モラルや著作権に関する指導を年間3回以上行う。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

○ 「特別講義」 および「キャリアデザイン」を教育課程内で体系的に位置付け、2年次における学習成果の定着を目指して取り組んだ結果、学生が多角的な視点から自身のキャリア形成について考える力が向上しつつあると考えられる。学校評価アンケートにおいては、「『キャリアデザイン』の授業は有意義であった。」との設問に対する肯定的回答が、70.8%から73.3%へと上昇した。

○ 阿倍野税務署と連携して実施した「租税PR映像制作プロジェクト」では、学生が租税制度や納税者意識について理解を深めながら、納税に関する不安を軽減する表現方法についてチームで検討し、作品制作に取り組むことができた。なお、採用作品については、1月15日に本校において阿倍野税務署長より感謝状が授与された。

次年度への改善点

○ 今年度は、1年生の担任を中心に「キャリアデザイン」の授業を核として、早期から就職活動を意識したキャリア形成指導に取り組んだ。来年度はこの取組をさらに発展させ、1年次夏期休業中にポートフォリオ制作の時間を確保し、就職活動に向けた準備を前倒しで進めることで、早期内定獲得につながる支援体制を強化していく。

○ 社会で求められるマナー意識や公共心の醸成を目的として、地下鉄構内に掲示されている既存ポスターの掲示スペースを活用し、学生一人ひとりが「マナーの大切さ」をテーマに制作したポスター作品を展示する取組を検討している。これにより、社会人基礎力の育成と、地域社会への発信機会の充実を図りたい。

大阪市立デザイン教育研究所 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準

A : 目標を上回って達成した

B : 目標どおりに達成した

C : 取り組んだが目標を達成できなかった

D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○ グラフィック、プロダクト、UI/UX、空間デザインなど、さまざまな分野に触れることで学生の適性や興味を広げることを目指す。また、メタバースの知識を高校時代に学んだ学生が入学することに合わせ、これまで2年次の夏季授業で行っていたArchiCAD実習を1年次の前期授業として開講することで、学生の関心に対応する。</p> <p>○ 実践的な授業としてクレイモデルの授業を提供しているが、社会のニーズに応えるため、デジタルモデルの授業を新たに開講し、Adobeソフトや3Dモデリング、AIデザインツールなど、業界で求められる最新技術を学ぶ機会を提供する。</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	達成 状況
<p>取組内容①</p> <p>専門分野への自信と幅広い知識のバランスを獲得することで、21世紀を生き抜くための「T型人間」の育成を目指したカリキュラムの開発に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学校評価アンケート「学生の進路や、興味・関心に配慮した時間割の作成ができるよう指導が行われている」の肯定率を70%以上とする。</p>	B
<p>取組内容②</p> <p>学生一人に対して複数のプロジェクトに参加させ、デザインで社会の課題を解決するため能力を育む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学校評価アンケート「プロジェクト等の活動を通して、特色ある学校づくりが行われている」の肯定率を80%以上とする。</p>	A

<p>取組内容③</p> <p>プロジェクトでのグループワークや課題に協働して取り組むことによって、自己の考えを表現する力を育成し、外部の方に自分たちの取り組みをわかりやすく説明できるように、アウトプット能力の向上を図る。</p>	B
<p>指標</p> <p>学校評価アンケート「今年度取り組んだプロジェクト等の活動は満足いくものであった」の肯定率を70%以上とする。</p>	
<p>取組内容④</p> <p>「課題研究1・2」の授業を学生一人ひとりの興味・関心や実態に応じて進め、課題研究発表会で学生自身が達成感を得られる成果発表ができるよう指導し、将来的に自分のキャリアに応用できる能力を育成する。</p>	B
<p>指標</p> <p>学校評価アンケート「2年次における課題研究に対して満足のいく取り組みができている」の項目を70%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑤</p> <p>1年次に新設した「ArchiCAD実習」や「デジタルモデル」の授業を通じて、社会の急激な変化や企業のニーズに対応できるスキルを習得することを目指す。</p>	B
<p>指標</p> <p>「ArchiCAD実習」と「デジタルモデル」の授業後のアンケートで満足度を70%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑥</p> <p>クリエイターとして必要な英語能力を身につけ、デザインの力を現場で発揮できるよう、デザインに関する簡単な英語の文章や会話を理解する力を育成する。</p>	B
<p>指標</p> <p>在校生全員にTOEIC BRIDGEを受験させ、正答率50%以上の割合を昨年以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>○ 今年度より、1年次前期に「ArchiCAD実習」、1年次後期に「デジタルモデル制作」を新規開講し、社会の動向に対応したカリキュラムの整備を進めることができた。いずれの授業も内容が高度であり、学生にとって一定の難易度があったものの、授業後アンケート「この授業は、あなたの学習や将来の目標に役立ちましたか？」において、「ArchiCAD実習」では64.2%、「デジタルモデル制作」では91.7%が肯定的回答となり、一定の教育的効果が確認された。</p>	

○ 5年目を迎えた「こども隙間転落防止プロジェクト（スキマモリプロジェクト）」は、継続性と発展性を備えた社会連携活動として高く評価されている。PR用に制作したスキマモリの着ぐるみも好評を得ており、11月に京セラドーム大阪で開催された「第50回 社会人野球日本選手権大会」にも登場し、来場者から高い関心と評価を得た。また、学校評価アンケートの項目「プロジェクト等の活動を通して、特色ある学校づくりが行われている。」における肯定率は85%となっており、引き続き高い評価を維持している。

次年度への改善点

○ 今年度は「租税PR映像制作プロジェクト」や、大阪市教育委員会からの依頼によるデジタルサイネージ制作等に取り組んだ結果、映像分野に関する教育ニーズがこれまで以上に高まっていることを実感した。一方で、映像系の授業については現状では必ずしも十分とはいえない状況であるため、来年度は1年生に映像分野の基礎科目を配置し、段階的に専門性を高めていくカリキュラム体制へと整備していく予定である。

○ 来年度は、工芸高校以外の出身者が在籍学生の半数を超える見込みであり、これまでのような「プロジェクト」の進め方だけでは対応が難しくなることが想定される。本校の特色である「プロジェクト」の授業を今後も継続・発展させていくため、まずは多様な価値観や立場を相互に理解し、協働して課題解決に取り組む素地づくりを重視した授業展開へと見直しを行う予定である。

大阪市立デザイン教育研究所 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準

A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○ HPを活用した情報発信をはじめ、オープンキャンパスや入試説明会、学校訪問などを通じて広報活動を強化し、デ研の取り組みを広く周知する。大阪市内だけでなく、大阪府や他府県のデザインに興味のある高校生にも認知されるよう、積極的に広報活動を進め、進学先としての魅力を伝え志願者を増やす。</p> <p>○ 学校での学生生活を快適に過ごせるよう、不具合の早期発見と迅速な修繕に努める。また、環境にも配慮し、校内のLED化を進め、エネルギー効率を向上させるとともに、明るく快適な学習環境を提供する。これにより、学生が集中しやすい空間を作り、無駄な電力消費を削減して持続可能な学校運営の実現を目指す。</p>	A
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	達成状況
<p>取組内容①</p> <p>学校説明会や学校訪問の資料を作成し、本校を受験希望者により理解してもらうため、学校説明会やオープンキャンパスを積極的に実施する。</p>	A
<p>指標</p> <p>学校説明会やオープンキャンパスを年間5回以上実施する。</p>	
<p>取組内容②</p> <p>大阪市内だけでなく、大阪府や他府県のデザインに興味のある高校生にも認知されるよう、積極的に広報活動を進め、進学先としての魅力を伝えて志願者を増やす。</p>	A
<p>指標</p> <p>公立・私立の高等学校や美術塾に50校以上訪問し、本校の魅力を説明することで志願者の増加に取り組む。</p>	

<p>取組内容③</p> <p>ホームページやSNSなどを効果的に活用し、本校の取り組みを積極的に発信することで、開かれた学校運営を行う。</p>	A
<p>指標</p> <p>ブログ記事の更新を年間50回以上行う。</p>	
<p>取組内容④</p> <p>地理的制約にとらわれず、すべての受験希望者が学校の情報に平等にアクセスできる環境づくりを目指し、学校説明会のオンライン同時開催を推進する。</p>	B
<p>指標</p> <p>オンライン同時開催を少なくとも1回成功させる。</p>	
<p>取組内容⑤</p> <p>奨学金に関する情報の発信および、学びやすい教育環境の整備に向けて、教職員間で情報を共有しながら、一人ひとりの家庭状況に応じた奨学金の適切な活用方法を検討し、支援を行う。</p>	B
<p>指標</p> <p>学生部による奨学金対応に関するアンケート結果において、「満足」「やや満足」と回答した学生の割合を全体の70%以上とする。</p>	
<p>取組内容⑥</p> <p>教員の長時間勤務の解消を通じて、教員が学生たちの前で健康で生き生きと働くことができ、学生一人ひとりに向き合う時間を確保できる環境の実現に取り組む。</p>	B
<p>指標</p> <p>教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を基準1で50%以上、基準2で75%以上とする。</p>	
<p>取組内容⑦</p> <p>ICTの活用による業務の効率化や、夏季・冬季休業中に学校閉庁日を設定するなど、休暇を取りやすい環境や悩みを軽減する環境を整え、教職員の心身の健康を促進する。</p>	B
<p>指標</p> <p>ストレスチェックの総合（健康リスク）の評価を100にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

○ 本年度は4月から9月にかけて、大阪府下を中心に、兵庫県・和歌山県・奈良県の公立・私立高等学校および美塾、計75校を訪問し、積極的な広報活動を実施した。これに加え、出前授業を4校で実施し、合同進路説明会にも3校参加するなど、例年以上に多角的な広報展開に取り組んだ。その結果、志願者数は着実に増加し、3年ぶりに入学定員を充足することができた。

○ 施設整備については、使用頻度の高いギャラリーのLED化を完了することができたが、その他の教室や廊下等については来年度以降の整備計画とした。また、空調機器の更新についても、予算の状況を踏まえながら順次実施しているところであり、引き続き計画的な更新・整備を進めていく必要がある。

次年度への改善点

○ 学校訪問に加え、出前授業や合同進路説明会への参加を通じて、本校の教育内容や特色を直接伝える機会を増やしたことにより、本校の認知度向上につながった。来年度も継続的かつ組織的に広報活動を推進するため、校務分掌として広報部を新設し、さらなる志願者増加を目指す。また、学校説明会のオンライン同時配信により、遠方の高校生にも入試情報や本校の魅力を伝えることが可能となったため、今後も積極的に活用し、周知拡大を図る。

○ 2027年の蛍光灯生産中止に対応するため、校内照明のLED化を計画的に進めている。今年度はギャラリーのLED化を完了したが、来年度はその他の教室および廊下等への導入を推進する。また、学校評価アンケートの項目「学生が積極的に清掃活動・環境美化に取り組むように指導が行われている」における肯定率が57.7%と低い結果となったため、来年度は学生部を中心に、指導体制の見直しや取組内容の明確化を図り、学生の主体的な環境美化意識の向上に努める。